THE LION'S ROAR

ISS INTERNATIONAL SCHOOL SINGAPORE CAMPUS

潜在力の実現

JANUARY 2018

www.iss.edu.sg

マイクル・タイラー
中学校校長

2018年、新年明けましておめでとうございます。

今年の学年が下半期になりました。2学期と言ったり、2018年と言ったりします。
特に、今年の中盤にISS共同体に合流するご家族の皆さまを歓迎します。オリエンテーションプログラムと幾つかの支援活動を通じて新しい学校生活をより楽しいものにします。在校のご家族の皆さまは、休暇中は休息を充分に取ったと信じ、キャンパスで懐かしい顔に会えることを期待します。

1学期は多様な活動とともに瞬時に流れていきました。低学年と2年生たちが公演したコンサート、9年生から12年生による華麗な光のフェスティバル、10年生たちによる個人プロジェクトなど~すべての活動で学生たちは冒険的な能力を見せてくれました。暴風の中を「アージェント・ランと飢餓撲滅のためのウォーキング」に参加して、イースト・コースト・パークウェイ(the East Coast parkway)を歩いた中学生たちが見せてくれた、行動するサービスが際立ちました。

学生たちが発展する上で、なぜ冒険が核心の能力なのか?
IB(International Baccalaureate)は、学生たちを包容して挑戦する学問的に厳格な側面で、そしてやはり重要といえる社会に肯定的に貢献する質的特性を開発する側面で成功を収めました。このような質的な特性は、すべてのIB プログラムのベースになるIB 学習者のプロファイルにまでさかのぼることができます。学習者のプロファイルは、すべての学生がより良いグローバル市民、より良い人間になるよう動機付与をし、挑戦させて奨励します。10個の学習者のプロファイルのうち、1つのプロファイルは、学生たちが冒険家になるように刺激を与えます。「事前の熟考と透視により不確実性にアプローチ; 新しいアイデアと革新的な戦略を探求するため、個別または共同で作業。挑戦と変化に立ち向かい、知略があり弾力的」 (source:ibo.org).このような問題で、学生たちが冒険家になれるように励ますことがなぜ大切なのかだけでなく、サポートを惜しまないISSの環境が、なぜ教室を越える報酬につながるか検討することができます。

2学期に期待できるものは何ですか? 6年生から12年生までのスポーツデー; 5年生の水泳ガラ; 小学校の5つ以上の学年による芸術公演; パターソンキャンパスの美術展示; 中学校の特技自慢; 5年生から6年生に, 8年生から9年生への進学祝い; そして12年生の卒業祝い. 幻想的なフェスティバルも語らずにはいられません。PTAが主催するこのフェスティバルは、学期のハイライトです。教育の一線で5月のIB 試験と10年生のIB MYPオンライン評価 (e-Assessment)を行います。6年生から8年生はオンライン試験とeフォリオ(e-folios) プロジェクトを実施し、5年生はIB PYPの展示に集中します。2学期に入り、PTA会議と三者(Three-Way) 会議を通じて、教師陣と再び会うことができます。
常にそうだったように、ISSで多くの出来事が起きており、キャンパスに関係なくアプローチできる方法が多くあります。毎週週末には、小学校と高校の校長先生が先週の出来事や今後の重要な日をブログ(blog)に掲載します。学校のWebサイト (iss.edu.sg)には重要なお知らせや学校に関する興味深い記事が掲載されます。PTAがフェイスブックを開設し、多くの情報が上がってきます。いつも最新情報をご覧になれます。このニュースレターもあります!

これらのすべての行事で皆さんにお会いできることを期待しながら、学生たちの学習のためにサポートを惜しまず積極的にご協力くださいました父兄、後見人、学生のご家族の皆様に心より感謝いたします。

充実した1学期になるよう願っています。

マイクル・タイラ(Michael Taylor)
中学校校長

目次

02 ISSについて見る:
冒険家になれ。未知の世界を冒険すれば、何倍も成長する!

04 理事会のメンバーを見る:
チャーリーチャン
(Mr Charlie Chan)

05 学生たちの成就と貢献:
小学校の公演コンサートは
パターソン図書館のブックフェア
光のフェスティバル
個人プロジェクトの展示および長文のエッセイの発表
飢餓撲滅のためのウォーキング、アージェント・ラン & 公園掃除 2017

08 ISSについて:
新しい現実のための教育、充分な準備
シンガポールで初めて開催された日本大学情報セッション

10 過去の行事:
学校の活動
11月 – 12月

11 今後の行事:
期待の行事
1月から2月

13 シンガポールの あれこれ:
今後の行事

作文を書く前に自分たちで必要な言葉を準備しています

冒険家になれ。未知の世界を冒険すれば、何倍も成長する!

「人間は他人の行動を把握して模倣する本能がある」ことで知られています。簡単に言えば、標準に従っていれば安全で確実なので楽でしょう。しかし、Apple(Apple)とイケア(IKEA)のような成功事例は、標準に従いませんでした。アップル(Apple)の革新的なiPhoneとイケア(IKEA)の組み立て式家具のような成功したグローバル企業は、他人と差別化するために冒険を挑みました。会社の従業員は勇気と確信を持って跳躍し、技術革新を実現するために別の道を模索しました。

IBのカリキュラムでリスクを受け入れることは10個のIB学習者のプロファイルの一つであり、IB学習者のリスク許容を奨励して確信を植えつけています。これは無謀な行動を推奨するものではなく、自分の限界を超えて、挑戦する勇気を積み重ねることにより、失敗に対する恐れに縛られないようにするところに重点を置いています。また、学習者が自分の選択と行動に確信を持つことを勧めています。このため、新しい画期的な思考と計画を立てて、今までの固まった考えを覆すことができるように導きます。新しい経験を重ねることにより学習者は新しいものを学び、今まで気づかなかった自分の長所を発見することができます。冒険をしない場合、このような発見する機会を開くことができません。学習者は批判的な思考方法や自分を管理する方法も習得することができます。学習者は、新しく得た情報を批判的に分析し、長所と短所を把握します。与えられた状況がどんなに難しく不確実でも、冷静さと体系性を開発し、従来の決まった型から抜け出した考え方を育てることができます。

ISSでも学生たちは冒険性を育て、新しい画期的な思考を育てることができるように指導を受けます。様々な挑戦をしながら、自分の選択に確信を持つことが奨励されます。違う点は、教師が教室で造成する安全な環境にあります。中学校の校長マイケル(Michael)によると、「安全な環境とは、学生が適切な準備性を持って冒険することが推奨される環境です。リスクの受容とは、誤った準備と常識によって冒険することではありません。なぜなら、それは、もはやリスクの許容ではなく無謀になるからだ。」マイケル(Michael)は続けて述べました。「リスクの受容は、学生の探求、研究、コミュニケーション、行動、検討、整理などのコア技術を教えるものであり、このような結果は、私たちのATLの一部であり、学校で教えるすべての科目に反映されます。これらの冒険性を育てる土台になります」。

友達が恐れを克服する時のちょっとした手助け

IBのカリキュラムでリスクを受け入れることは10個のIB学習者のプロファイルの一つであり、IB学習者のリスク許容を奨励して確信を植えつけています。

実験をする前の、確認作業

また、安全な環境は学生が失敗することに対して不安を感じないようにします。数学と科学の教師であり小学校の教師であるミナル(Minaal)は言いました。「リスクの受容は、教室で重要な部分です。学生たちは、状況が適切であるときには、同じ結果の活動でも難易度を調整することができます。このような冒険的な性向を育成するために、学生が新たな課題と失敗を恐れずに、その過程で多くのことを学ぶことができるよう指導します。学生の不安な思いを知るように努力して、否定的な態度を持つ理由を理解しようとします。ある学生は数学を恐れており、課題を遂行する上で非常に難しさを感じました。 ここで重要なのは、学生の不安を過小評価しないことです。この不安を認めて、それについて学生と話をしました。学生に「数学は難しく感じるかもしれない！どのように解いたら良いか分からない問題を見た時はなおさらそうだ。」と話してあげました。私たちは、新しいものから出てくる恐れについて話しましたが、学ぶためにはこのような新しいものが必要です。授業が終わる頃には、私が担当した学生が数学の課題を見事に終え、(適切な指導の後)翌日、新しい課題を始めるとき、その学生がクラスメートに「自分ならできる」と言ったのを聞きました。」

この例は、安全な環境が全てではなく、これがISSの核心となる学習方針とかみ合うということです。この学習の方針には、学生が自分の目標のために進むことができる成長の環境を造成すること、学生の自己開発の道をサポートすること、誰もが自分の意見を表現する機会を持つことができるように包容的な環境を作ること、そしてすべての授業を一人一人に合わせて進め、学生が自分自身の進度に合わせて授業を受けることができるようにすることなどが含まれています

中学校の校長を務めるマイクル(Michael)はこれに付け加えてこう語りました。こういった冒険的な思考を育てるのには 4 つの重要な要素があります。

(a) 肯定的で開かれたコミュニケーションを保障し、威嚇的でない環境
(b) 肯定的な態度と親切なフィードバック
(c) 境界を明確にするための適切な体系
(d) 人間的で楽しい環境

これは、マイクル(Michael)が中学校で実感した内容です。「学習スペースにこのような環境を造成して学生たちをサポートすること。 これは、学生たちの冒険心を育てることに加えて、彼らが着実にグローバル市民として成長するように助けます。運の良いことに、私はこのような環境の中で育ったし、大きな効果をもたらしました。」

お子さんが8年間ISSに通った自慢の母カレン(Karen)は共有しました。

「私は自分の子どもたちが学年が上がりながら責任感と自信が育くまれたことに対し、校長と教師の方々に感謝しています。彼らは子どもたちに4歳の時から小さな課題を与え、13歳の時には複雑な研究課題を出しました。私の子どもたちが冒険家として成長していくのが目に見えて分かりました。その中でも目立ったのは、子供たちが多くの聴衆の前で自信に満ちて堂々と話をすることができるというところでした。以前は今のように子どもたちが自信をもっていると確信をもつことができませんでした。2年前の出来事は絶対忘れられないでしょう。1つ目は、父兄が招待された場で他の学生たちと一緒に発表会に参加しました。息子の発表は順番が最後であったため、待っているのが大変でした。発表の後、高校の校長ニコラ・ズールー(Nicola Zulu)は息子に『君の発表は1日中でも聞くことができる。』と言ってくれました。私の息子が発展する姿を見てとても嬉しかったです。」

日本の大阪大学に在学中のISS卒業生マリー-クレール(Mhairie-Claire)は、ISS教師のサポートに感謝の意を表します。「基準を外れた私の挑戦を応援してくれた先生たちがいなかったら、言語や文化をよく知らない国で勉強することなんて考えられなかったでしょう。先生方の指導方法は、冒険と新しいことを試みることができる勇気を与えてくれました。そこで得たものは非常に大きいです！今では、日本語を使用することができ、日本文化に対する理解も高まりました。より重要なのは、挑戦を必要とする上位の大学の課程が要求するものに立ち向かう根性ができました。」

「ISSの先生方は、新しいことを試みることができる環境を作り、私を冒険家に育ててくれました。先生は、私が学習したい内容があれば、失敗しても大丈夫だと励ましてくれました。慣れていないことに挑むときに、安全でリラックスできるようにしてくれました。こうして学び、成長することで多くの事を得ることができ

ました。以前のように何も挑戦もしていなかったときとは異なり、様々なことに挑戦する自分自身を見て、冒険的な性格に開発されたことを感じました。」ジウ（Jeewoo）、ISS生徒会長

ジウ（Jeewoo）の行動は、ミナル（Minaal）が報告した通りです。ミナル（Minaal）はリスクを受け入れた子どもたちが自分を限界を超えて挑戦をする様子を観察しました。そして、彼らはいくつかの課題が与えられたとき、むやみに最も難しいものを選択するというより、全体を考慮して選択する思考の深さを学んでいきました。彼女は、ある時学生がとても簡単な課題を選んだことを覚えています。次の授業では、ある1人の学生が「昨日の課題はとても簡単だったので、今日はもっと難しい課題を選ぶつもりだ」と言いました。また、それとは逆に自分が選択した課題がとても難しかったと言った学生もいました。そういう時は、少しだけ難しい課題を選択し、難易度を徐々に高めて新しい情報を習得し、ミナル（Minaal）の指導を受けながらより複雑な内容を解決できるという自信を得ます。

ミナル（Minaal）は続けてこう言いました。「リスクを受け入れることは当然私達の本能にはありません。しかし、未知の世界を冒険する人々は、非常に多くのものを得ます。私たちは、成功のために根性、成長しようとする態度、意図しない出来事に遭遇するときに乗り越える柔軟な思考を開発し、以前の知識から批判的な思考を学びます。」

これらは、リスクを受け入れる能力と同様の重要な能力であり、ISSは、学生たちがこのような能力を発展させ、世界的な舞台で成長できるようにサポートします。「ミスと失敗が、リスクの受容と学習の場の重要なポイントであることを理解すれば、なぜ冒険的な性向が非常に重要な能力なのか分かるはずです！。最後に、ミナル（Minaal）が最も好きなリスクの許容とそのメリットについてトーマスエジソンの名言を紹介します。「私は失敗したのではない。私はただ10,000回失敗する方法を発見しただけだ。」

リスクに挑戦。IBの目標の一つです

理事会のメンバーを見る

チャーリーチャン(Mr Charlie Chan)

Mrチャーリーチャン(Mr Charlie Chan)は、保健部とシンガポール総合病院の医薬製造および購買部署で長年勤務してきました。公務員を退いた後、北京のISSインターナショナルスクールの施設管理者として20年以上働いてきました。北京にいる間、中国政府の規制に関する幅広い知識を蓄積して、市役所や地域社会と良好な関係を結びました。また、北京ISSがある地域で学校を効果的に発展させる上で重要な役割を果たしました。

2014年に北京インターナショナルスクールを退社し、ISSインターナショナルスクールの理事会でボランティアをするよう招待されました。彼は2015年11月からISSインターナショナルスクールの理事を務めています。

Mrチャンは、ISSがシンガポールと北京のインターナショナルスクールが名声を保ち、今日まで成果を収めるために貢献してきました。ISSの強みは、献身的な教師と指導者が発展させたカリキュラムでの経験を革新的な思考と結合させた点にあります。ISSは、学生の割合が低い点をメリットとして最大限生かし、背景に関係なく、学生たちに自由で一人一人に合ったサポートを継続的に提供する教育哲学を発展させてきました。父兄、理事会、卒業生で構成された大きなコミュニティに学校の活動や成果を常に伝える学校の方針も強みとして作用しています。

父兄たちは、ISSでご子息が挑戦、思考方法、実生活での経験、そして多様な文化の環境へ入り込み、楽しんでいる姿を確認できます。これはISS卒業生たちがグローバル経済の中で成長して成功していく上で大切な土台となるでしょう。

チャーリーチャン

小学校の公演コンサートは

K2の生徒による何て素敵なパフォーマンス

G2の学生、完全に自分の役に浸っています

小学校の公演コンサートは、公演とカリキュラムの内容をつなげる最適な機会です。それぞれの独特な公演を通じて、学生たちは自分の学年で探求する単位のインスピレーションを与えられます。公演の特性に親密な意味があるため、子どもたちは公演でより大きな役割を果たしながら、舞台に馴染み確信を持つようになります。1学期に行われた幼稚園2年生と小学2年生の公演コンサートは大成功を収め、2学期には幼稚園1年生、小学1、3、4、5年生と一緒に、より幻想的な経験を共有できると期待しています。

パターソン図書館のブックフェア

「ブックフェアにはいろいろな作家が書いた本があるので、楽しみにしていました。大好きな本はライナ・テルゲマイアー(Raina Telgemeier)の『幽霊』です。」

「本を読むのは好きです。」

オリビア(Olivia)とジョシュ(Josh)姉弟は、11月1日にパターソン図書館のブックフェアに家族と一緒に来たときこう語りました。

「パターソンキャンパスの『三者カンファレンス (3 Way Conferences) 』の日に、小学生と中学生の生徒と保護者のために開催されました。生徒たちはブックフェアを見て回りながら、いろいろな本を買いました。これらの本は、"Closetful books"「本でいっぱいのクローゼット」という本のためのイベントをお手伝いする会社が選んでいます。シンガポール、イギリス、オーストラリア、アメリカから取り寄せた本が多数揃っていて、すべてのジャンルの小説、興味深いテーマの書籍、可愛いイラストの絵本などで構成されています。新刊から幅広く読まれている古典まで、あらゆる年齢の学生が読める本が準備されています。ライブラリアンとブックフェアのスタッフは、保護者と学生が選んだ本が学生に適しているのかアドバイスしてくれました。

読みたい、読みたい、読みたい!

パターソンキャンパスのブックフェア

光のフェスティバル

星空のパフォーマンス

豪華に並べられたビュッフェ

光のフェスティバルは、ISSで音楽的な才能を持つ学生を記念する良い機会です。

プログラムは2つのパートに分かれており、記念的な夕べの最初のパートでピアノリサイタルに参加した11年生から12年生(ミンジュオ、ウィジエ、ナオキ、スユン)のソロピアノ演奏者たちに会うことができました。2番目のパートでは、9年生と10年生のアンサンブル(ensembles)とマリー-プログ、トリステン、フイトゥン、ユキ、リサ、ミホ、ヨンチン、ユタなど11年生から12年生の演奏者のソロ公演がありました。公演者はみな緊張していましたが、舞台に上がりベストを尽くしました。彼らの冒険的な性向を見事に実現させました!

我らの音楽家の一人

各々の公演が終わった瞬間に注がれた暖かい拍手喝采を通じて、聴衆が楽しい時間を過ごしたことが分かりました。

個人プロジェクトの展示および長文のエッセイの発表

個人プロジェクトの展示および長文エッセイの発表は、MYPとDPプログラムの重要な部分です。MYPとDPプログラムを通じて、学生たちが自分に挑戦するようにし、批判的・創意的思考、社会的およびコミュニケーション能力を開発させるプロジェクトを行うことができます。学生たちが自分のプロジェクトを展示してクラスメートや父兄に見せる時、MYP学生たちのコミュニケーション能力と社会性が現れます。プロジェクトのためにより深く研究に専念する時、また、発表の途中で各質問に答える時、学生たちの批判的で創造的な思考が働きます。これは、間違いなく学生が自分の成就と学習に対して祝う場です。

未来の作家が自分の作品をプレゼンしています

長文のエッセイの発表は、学生の学びと記念碑(長文のエッセイ完了)の達成を祝う場でもあります。長文のエッセイは、学生たちが自ら問題を細かく調査・探求・評価するように求める学問的な課題を算出する課程です。このような課程を通じて、学生は研究や探求能力を練磨・開発し、新しい知識を習得しながら、テーマに対してバランスの取れたアプローチ方法を発展させ、開放的な思想家として生まれ変わります。

１２年生が、卒業制作についてプレゼンしています

10年生と12年生を褒めたいと思います。良く頑張りました!

飢餓撲滅のためのウォーキング、アージェント・ラン & 公園掃除 2017

G５－７のアクションデイのサービス活動です

これは海岸をきれいにしているところです

「自分を探す最も良い方法は、他人に奉仕する中で自分を犠牲にすることである。」
-マハトマ・ガンジー (Mahatma Gandhi)

５km歩きましたが楽しみました

個人プロジェクトの展示および長文エッセイの発表は、MYPとDPプログラムの重要な部分です。MYPとDPプログラムを通じて、学生たちが自分に挑戦するようにし、批判的・創意的思考、社会的およびコミュニケーション能力を開発させるプロジェクトを行うことができます。学生たちが自分のプロジェクトを展示してクラスメートや父

なぜするのか?

ISSアージェント・ラン(Urgent Run)は、世界トイレ機構(World Toilet Organisation)と命名された非政府機構(NGO)に連携され、「世界中のトイレおよび衛生条件の改善」に専念するプロジェクトです。アージェント・ランは、UNが持続可能な開発目標 #6 きれいな水と衛生処理と関連しています。-「誰もが水と衛星を保障されなければならない。」学生たちがアージェント・ランTシャツを10ドルで購入することにより、UNの目標を後援し、集まった収益金は世界トイレ機構に寄付しました。

海岸をきれいにしている生徒と先生

飢餓撲滅のためのウォーキングは、UN持続可能な開発目標 #2 飢餓撲滅- “ 飢餓を撲滅して、安全な食品と栄養の改善を行い、持続可能な農業を促進。「学生たちは、シンガポール食品銀行 (Singapore Food Bank)に食品を寄付しました。その目標は、貧困の中で暮らす共同体と家庭を助けることです。

公園の掃除は、UN持続可能な開発目標 #14「水面下の暮らし」に貢献します」...「あらゆる種類の海洋汚染を防止して減らすため、特に陸上における行為による…」 学生たちは、自ら海のごみの量を減らすために、小さいことから実践して貢献できるように願います。

”お腹を空かせた人をゼロに”運動のため歩いています

ボランティア活動は、中学校のカリキュラムで不可欠な部分です。教室で学んだことを実際の世界的な問題に適用することができるようにします。社会的な責任感を育てるだけでなく、カリキュラムの学習目的を達成します。これにより、普段学んでいることを現実の世界に適用してみる機会を持つようになります。12月14日に行われるボランティア活動は、学生の目標を実現しました。

新しい現実のための教育、充分な準備

多様な分野で活躍するのに重要なのは、質問する力です

CEOMrs.チャンと、参加した卒業生

世界は今めまぐるしいスピードでグローバル経済へと変化を遂げ、予測できない局面に立っています。同じ公式を繰り返し適用する方式では、生き残ることができません。こういった新しい経済形態の社会で学生たちが生き残れるようにするための教育システムが必要です。

ステファン・ホームズ博士(Dr Stephen Holmes)*は、2017年11月28日 パターソンキャンパスで初めて開催された「ISSインターナショナルスクール教育懇談会」シリーズで、学生たちを幼稚園から中・高・大学まで養成して就職まで連結させる能力についてこう説明しました。

学校は学生の将来のため準備すべきですーDr.ホームズ

「学生たちが小学校・中学校・高校を経て大学・就職と連携していくために必要な能力は、劇的に変化し続けています。学校のプログラムは、こういった変化をサポートする器を備える必要があり、過去と同様の方法を繰り返してはならない。」とホームズ博士は述べました。

以下のような能力です。
- o 問題を提起して解決する能力
- o 何かを発見して新しい知識と思考力(証拠をもとにする思考)を育てるように研究する能力
- o 自分の学習を管理して、他人と協力する能力
- o 創意的かつ新しい状況で革新的に対応できる能力
- o 多様な対人関係の能力を通じて、効果的で説得力のある意思疎通を行える能力
- o グローバル的な思考をもつ能力
- o 起業家精神を備える能力
- o 常に真実で信頼でき、責任感があり謙遜になれる能力

参加する保護者たち

彼は、学生たちのこのような能力を開発するために、学校はどのようにサポートしてくべきかについても説明を加えました。多様な分野に通じる思考に焦点を置いた探求ベースの学習環境の重要性を強調し、学校/大学を選択するとき、父兄が念頭に置くべき未来教育システムの3つの重点に関しても語られました。 学校の名声、子どもたちが楽しく学べるようにする能力、そして革新的で、未来志向的な思考をもつ学校。 ISSインターナショナルスクールが、このすべての項目に該当することが分かり、とても嬉しかったです!」

Dr.ホームズの話を熱心に聞く保護者たち

ホームズ博士は最後の質問に答えてテーマに関する疑問に明確に説明し、参加した父兄(ISSの父兄および他の学校の父兄)と聴衆の人々が見せた熱意は、間違いのないものでした。

その日の夜は、学ぶことの多い貴重な経験をした時間となりました。

*ステファン・ホームズ博士は、教育分野の戦略計画、市場のポジショニング、名声の管理などの多様な分野で経験豊富で信頼を積んだ専門化です。世界中の学校・大学でコンサルティング・研究・出版・講演を行ってきました。彼は、教育分野での変化を徐々に競合的で解放された方向に進める上で、世界的に著名な権威をもつ者として名声を築きあげてきました。

シンガポールで初めて開催された日本大学情報セッション

2017年12月10日日曜日に、日本の教育・文化・スポーツ・科学および技術(MEXT)高等教育部は、ISS　シンガポールインターナショナルスクール、日本グローバル教育財団と共にシンガポールでは初めて「日本大学情報セッション」をISS パターソンキャンパスで開催しました。

日本の優秀な10校の大学の代表者が参加して、日本の大学および大学院課程に進もうと考えている学生を対象に1対1セッションの時間を持ちました。

多くの情報が提供されたので、プログラムは非常に多様で面白かったです。各大学は、英語で行われるプログラムに関する情報だけでなく、日本語で行われるプログラムに関する情報を提供し、学生、父兄、および教育者たちに日本の大学教育を研究したデータをもとに最新の情報を提供していました。

「シンガポールと日本は50年以上の平和協力を続けてきており、今後、より多くのことが期待されます。様々な国籍で構成された学生たちと日本の大学教育に関する情報を共有するために、ISSインターナショナルスクールと協力した今回の機会は適切なものでした。若い世代に、より良い知識理解を植えつけてあげることができる可能性は無限です。」 - 坪谷・ニュウエル・郁子(Ikuko Tsuboya-Newel)、日本グローバル教育財団代表理事

「ISSインターナショナルスクールは、学生がみな自分に必要、関心、そして将来の計画に合った教育を受ける資格があるという信念を持っています。これは、私たちの包容的な哲学かつ文化であり、MEXTおよびGEFと協力してこれらの行事を開催することが、このような信念を裏付けています。」- マーガレットアルバレス博士(Dr Margaret Alvarez)、ISSインターナショナルスクール校長

学生がこのセッションを共有しました。

「私は大学で生物学(Biological　Science)を勉強したいと思っています。日本の大学は、この分野で多くの研究と実際に適用してきており、これらのプログラムを教えてきた経験が多いと聞いています。グローバルな30個ものプログラムが英語で行われる日本の大学は、私に大きなメリットとなるでしょう。英語で行われる大学の環境(English　tertiary　environment)で私の興味を実現し、多文化の環境で勉強できる機会を持てます。このセッションに参加できて嬉しいです。」- ISSの学生ジェイソン(Jason)

シンガポールの他のインターナショナルスクールの学生もこのセッションを共有しました。

「インターナショナルスクールの大学相談担当者から日本の大学情報セッションについて聞きました。両親が仕事の関係で日本に滞在していたため、日本をとても身近に感じます。日本で大学の勉強を続けることは最高の選択だと思います。」ーマレーシア出身のインターナショナルスクールの学生

「私はまだ大学を選択していません。エンジニアリングの勉強をしてみたく、日本の大学にこの科目を英語で行われるプログラムがあるので、日本の大学で勉強することを考慮してみる価値があると思います。」- インド出身のインターナショナルスクールの学生

複数の大学が提供する多様な情報とともに、今回のセッションは非常に有益で役に立ちました。来年もこのような情報セッションが実現することを期待します。

Facebookに掲載された内容です。

「インターナショナルスクールの大学相談担当者から日本大学情報セッションについて聞きました。両親が仕事の関係で日本に滞在していたため、日本をとても身近に感じます。日本で大学の勉強を続けることは最高の選択だと思います。」ーマレーシア出身のインターナショナルスクールの学生

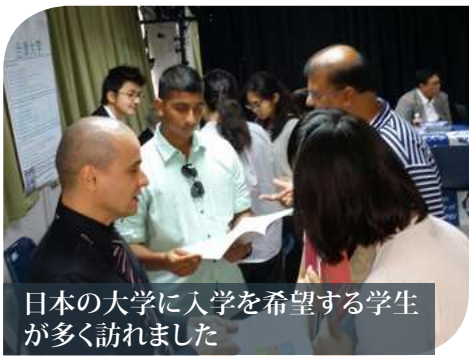
「私はまだ大学を選択していません。エンジニアリングの勉強をしてみたく、日本の大学にこの科目を英語で行われるプログラムがあるので、日本の大学で勉強することを考慮してみる価値があると思います。」- インド出身のインターナショナルスクールの学生

「ISSインターナショナルスクールは、すべての学生が自分に必要、関心、そして将来の計画に合った教育を受ける資格があるという信念を持っています。これは、私たちの包容的な哲学かつ文化であり、MEXTおよびGEFと協力してこれらの行事を開催することが、このような信念を裏付けています。」

興味を持った学生と一対一で話します

大学の説明を熱心に聞く参加者

多くの質問に答えます


日本の大学に入学を希望する学生が多く訪れました

学校の活動

11月 – 12月

小学校2年生の公演 (11月24日)

小学校2年生の生徒たちがペインティングして奇抜な公演を行いました。「星が輝く夜」。学生たちはこれを通じて、公演の前後や途中で想像力と表現力だけでなく、想像力を育てる最高の機会を持ちました。

高校のIBカリキュラム・情報の夕べおよび科目博覧会 (11月30日)

高校の父兄たちがISSのIBカリキュラムと複数の科目を知ることができる機会でした。父兄たちは、これを通じて子どもたちが学校で何を学んでいるのか知ることができました。

高校の光の公演ミュージックフェスティバル (12月 6日)

高校生たちが光の公演で音楽的な才能を発揮し、驚異の舞台公演を準備して披露しました！公演を企画したMr.クリス・ホディノット(Mr.Chris Hoddinott)とこれらの年例音楽行事を準備するために多くの努力を注いだ学生たちに感謝いたします。

光の公演フェスティバルの事前レセプションで親切な後援を提供し、イベント会場で特別な　ビュッフェや食事を用意してくれたISS　のPTA(Parent　& Teacher Association)と学校の理事会にも感謝いたします。

日本大学博覧会 (12月10日)

シンガポールで初めて日本の大学に関する博覧会がパターソンキャンパスで開催されました。著名な日本の大学10校が参加し、日本の大学または大学院の課程で勉強しようと考えている学生を対象に1対1で案内する時間でした。

学生と父兄は、貴重なフィードバックや情報、そして質問の回答を得て帰っていきました。

個人プロジェクトの展示および長文のエッセイ (12月12日)

今年、学生たちは個人プロジェクトの展示と長文エッセイ(extended essay)で優れた成果を収めました。科目のテーマには、社会的問題、歴史的、文化的な内容だけでなく、学生が手がけた研究テーマなど、様々なテーマが含まれていました。ある学生たちは直接製作した本、ビデオゲーム、キャンペーンのWebサイトや試作品モデルでプロジェクトを表現しました。学生は、学術的な研究をもとに、長文のエッセイを発表しました。ディプロマの重要な構成要素です。努力した学生たちと彼らをずっと指導してきた教師陣、みんな素晴らしかったです。

アクションデー(Action Day) 中学校ボランティア (12月14日)

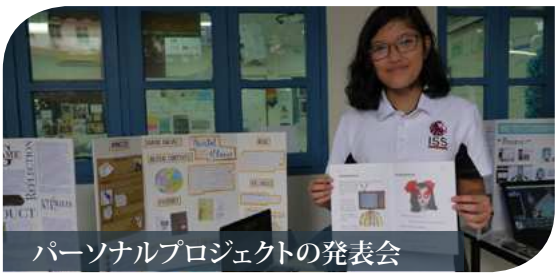
アクションデーに5年生から8年生の学生が「飢餓撲滅のためのウォーキング、アージェント・ラン＆公園清掃(Walking Towards Zero Hunger, Urgent Run and Park Cleanup)」行事に参加しました。学生たちは、イースト・コースト・パークウェイ(the East Coast Parkway)に沿って約5kmに渡りウォーキングとランニングを繰り返し、その後は公園の掃除に参加しました。行動するサービスは、中学校のカリキュラムの中で不可欠な部分です。学生は、貴重な経験を胸に秘めて帰宅し、これらの貴重な経験を通じて、教室の内外で学んだ知識を新鮮な世界的な問題に適用し、社会的な責任感を育てます。

G２ 星降る夜のパフォーマンス

IB ディプロマの説明会

星空のコンサート

日本の大学説明会、大勢の参加者


パーソナルプロジェクトの発表会

イーストコースト海岸でゴミを拾いました

期待の行事
1月から2月

10年生DP 体験デー (1月16日)

1月16日プレストンキャンパスで10年生たちがIBのディプロマプログラム(IB DP) カリキュラムに対して体験します。学生たちは、IB DP プログラムに対する プログラムの詳細な情報を提供する様々なレッスンに1日中参加します。9月に10年生たちが科目を選択する上で役立ちます。

来学期のためにIB DP のクラスを試しに受けています

8年生の父兄対象の高校紹介 (1月 26日)

8年生たちがISSのIBカリキュラムと多様な科目に関して詳しく知ることができるオリエンテーションを準備します。8年生 IBカリキュラムと科目博覧会に参加して、お子さんが高校で勉強する内容をご覧ください。

G８の保護者に高校の説明をしています

高校12学年美術作品展示 (1月 29日から2月 2日)

高校12年生の美術展示会では、学生たちは自分の作品を展示します。 2018年1月29日から2月2日まで開かれます。少し立ち寄って子供たちの傑作品を見て回り、作品の背後に隠れている思いを感じてみましょう。プレストンキャンパスでお会いしましょう!

美術作品のコンセプトを聞いています

PTAミーティング (2月5日)

2月のPTAミーティングにご出席ください。PTAは、他のISS父兄たちと交流し、ISSでの子どもたちの経験に同参して貢献できる機会です。

PTAで仲間意識で盛り上がります

小学校3年生の三者(three way) カンファレンス (2月23日)

毎年教師陣は、生徒と父兄と一緒にIBカリキュラムだけでなく、学生一人一人の成長のために共に考え提示します。

PTAフェスティバル (2月25日、変動あり)

PTA が毎年フェスティバルを企画します。今年も例外なく行われます!一つの共同体として共に時間を過ごす、遊びやゲームが盛りだくさんの1日が期待できます。パターソンキャンパスでお会いしましょう!

なんて美味しい!PTAノファンフェアが一番!

小学校および高校読み書き週間 (2月26日から3月2日)

小学校と中学の読み書き週間(Literacy Week)で、本の中の主人公のように本と読書に関連する様々な活動があり、本博覧会も開催されます！パターソンキャンパスに立ち寄って、本博覧会でいろんな本に出会ってください。

三者面談、子どもの上達について話します

高校9年生から11年生の父兄/後見人-教師陣カンファレンス (2月28日)

父兄たちがIBカリキュラムについて詳しく知ることができるように懇談会を開きます。 9年生から11年生を対象に行われる高校の父兄/後見人教師陣カンファレンスに出席し、お子さんの進路と学習について考える時間をお持ちください。

高校の保護者がIBのことをよく知るために話しています

PYP/MYP保護者コーヒーモーニングで、小学校＋中学校の教育および学習 (3月1日)

保護者（父兄）たちがIBカリキュラムについて詳しく知ることができる懇談会を開きます。PYPおよびMYPコーヒーモーニングに出席して、お子さんが学校で何を学んでいるのか知る機会をお持ちください。

保護者がPYPとMYPについてもっと知ろうとしています

シンガポールで開催予定のイベント

みなさんにとって幸せな 2018年になりますように!お子さんと一緒に来たり、ISS の他の家族と一緒に楽しめる意味深いイベントが開かれます。

希望に満ちたスタート

シンガポール川ホンバオ (Hongbao) で旧正月を案内します。マリナ・ベイ(Marina Bay)の象徴的なフローティングプラットフォーム(Floating Platform)で、中国に関するすべてのことを楽しみます。

1987年からシンガポール川ホンバオは毎年シンガポールのフェスティバルの日程に入っています。マリナ・ベイのフローティングプラットフォームで開催されます。この象徴的なイベントは、シンガポール市民と観客のためのシンガポール旧正月の祝賀行事の中核の伝統です。活気に満ちたイベントは、中国の文化を体験できる特別な機会です。 - 巨大なランタンから美味しい料理まで – あなたの感覚を呼び覚ますフェスティバルです。

中国神話と伝説の中の人物を描写する派手なランタンに驚かされます。この電灯は、中国の匠人たちが現地で直接手作業で製作しました。

人々は幸運の神、特に中国の星占いの１２の動物を好みます。

乗り物からフェスティバルのゲームまで、数多くの遊びが準備されているため、少しも飽きることがないでしょう。

オペラとストリートパレードを華麗なショーと一緒に楽しめます。

その後、光と音の不協和音で少し息抜きをします。シンガポールの巨大なグルメ通りの屋台で提供されるエキゾチックな食べ物に味覚を集中します。花火は好きですか?それなら、シンガポール川ホンバオでの開幕日の夜と旧正月カウントダウンイベントに魅了されるでしょう – みんなが明るく縁起良くお正月を祝うまぶしいシーンです。

シンガポール、マリーナベイ、フローティング・プラットフォーム
2018年2月14日から24日まで、午後4時半—午後8時
http://www.riverhongbao.sg

Chingay Parade

チンゲイ(Chingay) ・パレードは、シンガポールの多民族文化の 魅力を象徴する華やかなお祭りです。

シンガポールの独特な多文化の真髄を見ることができるイベントを１つ選ぶならチンゲイ・パレードです。 - まぶしい祝祭の車両(float)、踊る龍、竹馬に乗った芸人など、中国の旧正月の期間中開催されます。 このような素晴らしい行事では多様なシンガポールの文化を現す数多くの人種と公演が共演します。中国人、マレー人、インド人、ユーラシア人など。

ワイワイと楽しい雰囲気の中で、過去禁止されていた爆竹の補償もするように、40年前から行列が始まりました。これは、新年には幽霊を追い払う伝統行事の１つです。

今ではチンゲイ ・パレードは、アジアで最大級のストリートパレードであり祝祭車両パレードです。- シンガポールの中心部に行進していく祝祭です。

ピット(Pit) ビル 1階
2018年2月23日と24日、午後8時 – 午後9時半
http://www.chinggay.org.sg
https://www.sistic.com.sg/events/chingay0218